

## 「少人数学級の子どもたち～犬山から学ぶ～」

川崎 徹(犬山市小学校教員)

### 1 犬山がめざす教育

#### ア 「犬山の子は犬山で育てる」

- ①「人格の完成」「子どもたちに豊かな人間性と確かな学力を育む」
  - ◎勉強できる子、できない子、それぞれの良さがあり、お互いに学び合える
    - 学び合いの教育（能力別にしない）
  - ◎学習と生活ともに、子どもどうしの関わりを通した人間的な成長を重視する
    - 豊かな人間性と確かな学力
- ②「すべての子どもの学びを保障」
  - ◎先生が、一人一人の子どもの把握しやすい環境
    - 少人数学級にする
  - ◎子ども一人一人が、主人公として活躍できる授業
    - 少人数学級にする

#### イ 小学校の全学年での少人数学級（35人以下）

- ①市で独自に「担任の先生」を雇う（常勤講師8人程度を市で毎年採用）
  - ・国や県で行っている35人学級は、小学校1・2年と中学校1年のみ
- ②学習・生活ともに少人数にする→「少人数授業」より「少人数学級」
  - ◎「ゆきとどいた教育」と「あたたかい人間関係づくり」
- ③その他にも波及効果生まれる
  - ◎発達障害を抱えた子にとって落ち着く環境
  - ◎あたたかい雰囲気→いじめ問題が少ない
- ④教員の多忙化を抑制、教員と子どもとのふれあい
  - ◎ノートやプリントを見たり、成績処理などの事務作業の軽減
  - ◎子どもに直接関わる時間の確保

#### ウ 小規模でも地域の学校を大切にす

- ①小規模校ゆえに、あたたかく、ゆきとどいた教育が実現する

- ②山の手3校が存続しているのは、今の日本ではキセキ的！国宝級！
- ◎小規模校の取り組みを文科省にアピール（犬山市教委）
  - 今、全国では…
    - ▲学校統廃合が吹き荒れる。「人間的な教育」より「財政の効率化」が優先
    - ▲「学力テスト」「学校選択制」「小中一貫校」など一体で、忍び寄ってくる…
- ③地域と学校の関係の重要性（互いに大切な存在）
- 「スクールガード」「まちたんけん」「畑の先生」「昔の遊びの先生」
  - 「運動会や学習発表会などの学校行事への参加」
  - ◎学校にとって→「豊かな学び」
  - ◎地域にとって→「若返り元気パワーの源」
  - ◎「地域の学校を大切にしていこう」（犬山市教委）

## 2 少人数に なんで反対？（経済効率を優先させたい一方で…）

### ①「少人数では競争心がなくなる・切磋琢磨できない」

#### 2つの競争心

- ▲他を蹴落とし自分が他より少しでも抜きん出ることによって満足する競争心
  - ・排他的競争心。多人数だと、こうなりやすい
  - ・落ちこぼれると孤立してしまう
- ◎自分自身をより高めるための競争心（今の自分との競争）
  - ・「なるほど、それいいね。ぼくもやってみよう！」「いっしょにがんばろう」
  - ・他から学ぶ。友達と一緒にがんばり合える
  - ・少人数の方が、心の余裕が生まれる

#### 切磋琢磨とは

- 「学問や人徳をよりいっそう磨き上げること。また、友人同士が互いに励まし合い競争し合って、共に向上すること」
- ◎「互いに励まし合える」人間関係が大切であり、そうした親友のような人間関係が築ける学級づくりが土台になければならない。学級の人数や学校の規模はあまり関係ない
  - ◎むしろ、少人数学級・小規模校の方が良好な人間関係を築きやすく、将来に渡って長くつき合える親友ができることが多く、互いに励まし合い、生き方を含め、切磋琢磨し合う関係になれる

- ▲ 多人数での切磋琢磨は、排他的競争関係になりやすく、自分本位な子どもに育ったり、心が傷つく子を生み出したりする恐れがある

## ② 「多人数の方が、活気がある」

### 2つの活気

- ▲ 「やかましい」「にぎやか」

- ・ 声の大きいもの勝ち
- ・ 子ども一人一人にとっては、不安感を持つ子もいる

◎ 意欲としての活気…静かだけど、目が輝いている。「よし、やるぞ！」

- ・ 少人数の方が、一人の子どもにとって活躍の場が多い
- ・ 多人数では「活躍する子」と「お客さん」に分かれがち

## ③ 「少人数だと多様な考えができない」

### 多様な考えを生み出すのは

「学級や授業での友達や先生の発言」

「家庭・地域におけるさまざまな人との会話」

「読書などで、著名な人の考え方や自然や社会のことを知る」

- ▲ 学級は、同年齢の人間関係であり、その中での考えは、むしろ同質になりやすい。実際には、先生が問いかけて考えさせたり、自然や社会のことを語ったりして、多様な考えに導くことが多い

- ▲ それゆえ、学級の人数や学校規模は、「多様な考え」とはあまり関係がなく、それよりも「子どもどうし、あるいは子どもと教師が、互いに思ったことを言い合える人間関係、互いの考えを受けとめ合える人間関係である」ことの方が重要。その点で言うと、むしろ少人数の方がいい

## ④ 「小規模校は、クラス替えがないから、人間関係が固定化し、いじめ問題が高学年まで引きずるのではないか」

### いじめ問題

- ▲ 「いじめられやすい子」というのは、今、どの学校、どのクラスにもいる。(子どもも、ストレスを抱えている)

- ▲ それは「学級が変われば、いじめ問題は解消する」ような簡単な問題ではない(通学班での問題の方が深刻な場合もある)

- ▲ 小規模校だから、人間関係が固定化し、大規模校より、問題が深刻になりやすい心配はあるが、反面、小規模校では「いじめられやすい子を守ってくれる友達」が出てくることも多く、いじめられても孤立化することが少ない。家庭や地域も温かく見守ってくれる

### ⑤「小規模校は、先生の数が少ないから問題が起きると対処に困る」

先生の数が少なくて困っているのは、今、全国的な問題

- ▲先生数は、学級数に応じて決められおり、大規模校だから「手の空いている先生がいる」ということではない
- ▲実際に、先生が足りなくて困っているのは、「学級崩壊」「先生の病気休職」など、急な場合の対応で、補充の先生が見つからない事態がほとんど。そうした事態は、むしろ、大規模校の方が生じやすい

## 3 今こそ、少人数学級を！小規模校の存続を！

### ①コロナ感染対策で、学級を2つに分割して授業

20人以下の授業を全国の子どもと教員が体験

◎「これはいい！」

◎全国の228議会から国に意見書「少人数学級をぜひ」

### ②コロナ禍で学校は再開したが…

・授業→一人一人ばらばら。音楽・理科・体育・家庭科  
…どーするの？

・給食→「だまって、前見て、しゃべらない」

▲子どもの心と体の成長にとって深刻な問題

→いずれ子どもたちから逆襲が…

◎「コロナ感染対策」と「学びの保障の両立」を

### ③「小さな学校」「小さなクラス」が世界の流れ

▲日本・文科省「学校は、1学年2学級以上…」(適正規模?)

### ④一方、学級を増やすための先生がいない…

▲「教員未配置問題」

・新年度開始時点で、258名不足  
(愛知県小中学校・令和2年度4月)

▲多忙化問題、心身ともに疲弊

・1年で、175名が途中退職  
(愛知県小中39歳以下・令和1年度)  
・若者の間では「教員はブラック」が定説だとか…

◎「先生を増やしてください！！」

・教育にもっと予算を！…日本の政府支出は低すぎ！